

# 今の鴨川について学ぼう

鴨川の上流は、豊かな森林に覆われています。鴨川の水質は、山間部ではBOD<sup>\*1</sup>の年平均値が0.5mg/ℓ（平成24年）と低く、国の特別天然記念物であるオオサンショウウオも生息しています。また、まちなかでも概ね0.7mg/ℓ～1.2mg/ℓときれいな水質になっています。

北大路橋より上流の水辺にはツルヨシ群落があり、また、下流部の桂川合流点付近ではヨシ群落があり、アユ、オイカワ、カワムツ、カワヨシノボリなどの魚類や、カワセミ、ユリカモメ、カルガモ、イカルチドリなどの鳥類の生息も多く確認されています。しかし、一方では鳥の餌付けによる人への被害や、外来生物（チュウゴクオオサンショウウオ、ヌートリア）による生態系への影響も心配されています。



オオサンショウウオ ヨシ群落



オイカワ カワセミ



ユリカモメ イカルチドリ

鴨川で確認された主な生物たち	
植物	セイタカヨシ・ツルヨシ・セイヨウカラシナ ヤナギタデ・ミソソバ・セイタカアワダチソウ オオカナダモ 等
魚類	アユ・オイカワ・カワヨシノボリ・カワムツ・ ニゴイ・ズナガニゴイ・スナヤツメ 等
鳥類	カイツブリ・ユリカモメ・ヨシガモ・マガモ・ ヒドリガモ・カルガモ・カワセミ・イカルチドリ・ ハクセキレイ 等
爬虫類・両生類等	オオサンショウウオ・イモリ・カジカガエル・ クサガメ・インガメ・サワガニ・スジエビ 等

平成21,22年度調査結果(京都府)

このように鴨川は、わたしたちや、そこに生息する多くの動植物たちにとって、貴重な自然の恵みを与えてくれています。これからも、自然の恵みに感謝しながら、人も魚も鳥も草もみんなが気持ちよく、安心して利用できるように鴨川の環境を守り育てていくことが大切です。

## 鴨川のユリカモメ

鴨川では、毎年10月から11月になると、多くの鳥たちをみることが出来ます。特にユリカモメの群は、多いときには1日に約8,000羽のユリカモメが鴨川で確認されたときもありました。渡り鳥であるユリカモメは、昼間には餌を求めて鴨川に飛来し、夜にはねぐらになっている琵琶湖に戻ります。



提供:日本野鳥の会 京都支部

※1 BOD…生物化学的酸素要求量。水の汚れの度合いをしめすもので、値が大きいほど汚れている。

## 2 近年、鴨川では大きな洪水は起きていませんでしたが・・・

鴨川は、平安京の昔から暴れ川として恐れられており、たびたびはん濫して京都のまちは水害に見舞われてきました。

近年では昭和10年（1935年）の大洪水で大きな被害を出しましたが、これをきっかけとした改修工事などにより、洪水はん濫が起きにくくなりました。

しかし、最近では、地球温暖化などが原因と考えられる大きな水害が全国各地で発生しています。京都府でも、平成24年（2012年）の南部での大雨、平成25年（2013年）台風18号の府全域の大雨、平成26年（2014年）8月の福知山周辺の大雨で、多くの家が水に浸かるなどの被害が発生しました。



平成24年8月豪雨 弥陀次郎川の欠壊状況 平成25年台風18号 JR亀岡駅の浸水状況 平成26年8月豪雨 福知山市内の状況

鴨川では、平成25年9月の台風18号の大雨によって伏見区下鳥羽で洪水が堤防を越えて被害が発生しています。



平成25年9月台風18号 鴨川の増水状況 平成26年8月豪雨 鴨川の増水状況